

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに第125期第1四半期（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）の営業概況をご報告申し上げます。

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、通商問題の深刻化の懸念はあったものの、米国及び欧州では緩やかに景気拡大するとともに、中国及び新興国でも持ち直しの動きが続き、全体としては緩やかに回復しました。わが国経済は、雇用情勢の改善に加え、鉱工業生産や設備投資が増加基調で推移したことにより、緩やかに回復しました。

このような状況下、鉄鋼事業においては、鉄筋加工の効率化を可能とする新製品TACOil（ティーエーコイル）の本年秋の販売開始に向けて、製造ラインの建設を完了し、試運転を開始いたしました。また、自動車・産業機械部品事業において、アルミホイールのグローバル供給体制の新たな基盤構築を図るため、旭テック株式会社の持株会社であるATCホールディングス株式会社の完全子会社化を、本年5月に完了いたしました。

当社グループは、2016年度からの3年間を実行期間とする中期経営計画「Growth & Change 2018」において、成長ドライバーと位置付ける自動車・産業機械部品事業のグローバル展開の加速化、鉄鋼事業の独自技術を生かした製品群の拡充、クローラーロボットや合成マイカの新事業への挑戦等の諸施策を着実に推進し、事業の持続的な成長を目指します。加えて、将来を担う人材が最大限に能力を発揮できる働きがいのある会社への変革を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年8月



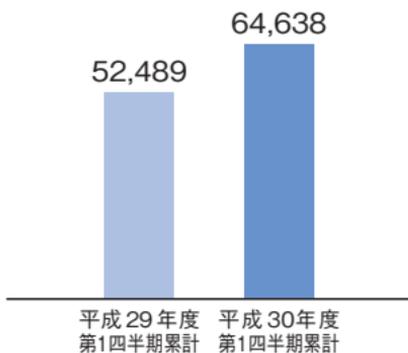
代表取締役社長

高松信彦

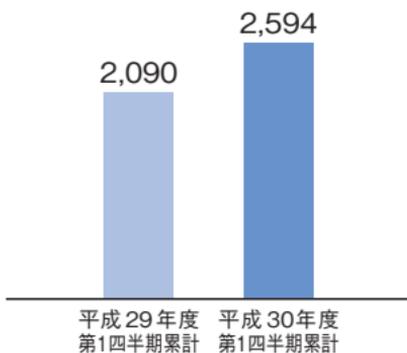
連結業績の推移

(単位：百万円)

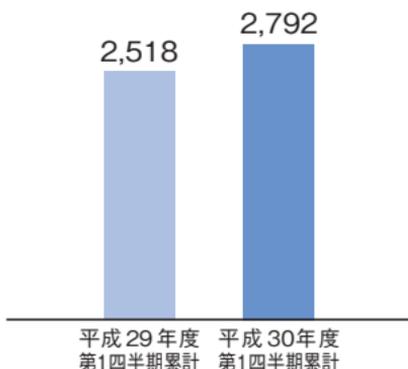
売上高



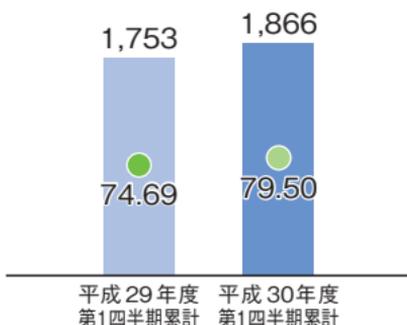
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期純利益 (■) 1株当たり四半期純利益 (●) (円)



四半期連結貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

科目	平成29年度末	平成30年度 第1四半期末	科目	平成29年度末	平成30年度 第1四半期末
資産の部			負債の部		
流動資産	118,495	134,654	流動負債	82,891	117,682
固定資産	129,606	144,317	固定負債	55,351	51,333
有形固定資産	92,206	98,661	負債合計	138,242	169,016
無形固定資産	3,078	6,477	純資産の部		
投資その他の資産	34,321	39,178	株主資本	101,203	101,657
資産合計	248,102	278,971	その他の包括利益累計額	7,756	7,178
			非支配株主持分	899	1,118
			純資産合計	109,859	109,955
			負債純資産合計	248,102	278,971

セグメント別の営業概況

鉄鋼事業

売上高 20,988百万円 ▲

営業利益 1,068百万円 ▼

電炉業界においては、建設向けを中心として鋼材需要が堅調に推移いたしました。一方で、主原料である鉄スクラップ価格に加え、合金鉄等の副資材価格や電力料金等が高騰し、厳しい環境が続きました。

このような環境の中、当社グループは、販売数量が増加するとともに、販売価格の改善に努めました。加えて、コスト改善を推進したものの、鉄スクラップや副資材等の価格上昇によるコストアップを補いきれませんでした。

自動車・産業機械部品事業

売上高 39,910百万円 ▲

営業利益 2,185百万円 ▲

建設機械業界においては、国内の油圧ショベル販売が、排ガス規制に伴う駆け込み需要があった昨年比で減少したものの、中国を中心に海外の需要は拡大しました。また、世界各地の鉱山機械需要も拡大しました。自動車業界においては、国内の乗用車販売に弱い動きが見られたものの、好調な輸出に支えられ国内生産台数は前年同期比で横ばいとなりました。

このような環境を受けて、当社グループは、建設機械用足回り部品や鉱山向け超大型ホイール等の販売数量が増加したことに加え、本年2月に完全子会社化したリンテックス株式会社の新規連結効果がありました。さらに、販売数量の増加に伴う固定費の増加を抑制するとともに、コスト改善にも努めました。

発電事業

売上高 2,008百万円 ▲

営業利益 117百万円 ▲

事業計画に沿って安定した電力供給に努めるとともに、電力販売価格が上昇いたしました。

その他

売上高 1,731百万円 ▲

営業利益 423百万円 ▲

売上高 64,638百万円

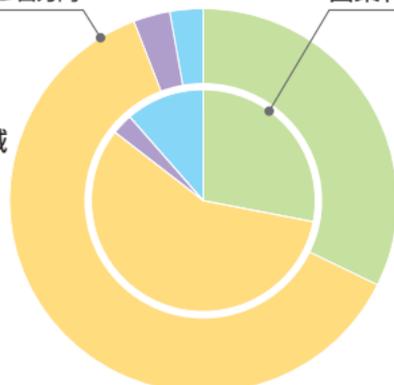
営業利益 2,594百万円

鉄鋼事業
20,988百万円
32.47%

自動車・産業機械
部品事業
39,910百万円
61.74%

発電事業
2,008百万円
3.11%

その他
1,731百万円
2.68%



鉄鋼事業
1,068百万円
28.15%

自動車・産業機械
部品事業
2,185百万円
57.60%

発電事業
117百万円
3.09%

その他
423百万円
11.16%

※セグメント別の営業利益及び構成比は、調整額調整前の数値で表示しております(合計3,794百万円)。

連結業績の予想

	平成29年度 実績	平成30年度 第2四半期 累計 予想	平成30年度 通期 予想
売上高	230,462百万円	133,000百万円	283,000百万円
営業利益	7,997百万円	3,000百万円	10,000百万円
経常利益	8,034百万円	2,900百万円	10,100百万円
親会社株主に 帰属する 当期純利益	5,500百万円	1,800百万円	6,800百万円
1株当たり 当期純利益	234.25円	76.65円	289.58円

配当の状況

	平成29年度 実績	平成30年度 予想
第2四半期末	20.00円	20.00円
期末	60.00円	70.00円
合計	80.00円	90.00円



従業員数：137人（2018年3月末現在）

生産品目：乗用車用アルミホイール

九州ホイール工業株式会社（KWK）は1976年に乗用車用ホイールの製造会社として設立されました。創業以来、商品企画から製造までの一貫した「モノづくり」体制を築く中、2009年には、生産拠点集約施策に伴いトピー工業グループ唯一のアルミホイール製造拠点となりました。

近年、乗用車用アルミホイールに求められているものとして、軽量化に加え、意匠性の向上等による径大化や高級感のある深い色合いの塗装など付加価値のついた製品の需要が高まっています。これに対してKWKは、最新の鋳造解析技術や強度を保持しながらリムの板厚を極限まで薄肉化するフローフォーミング加工により、軽量化と高強度を両立した径大化ホイールの製品化を実現するとともに、塗装については高級感があり、難易度の高い金属調塗装の設備導入により、意匠性に優れた外観を作り上げる体制を構築しています。KWKのアルミホイールは、品質面等においてお客様から高く評価をいただいております。高グレードの乗用車に継続的に採用されております。

今後も、製造技術に磨きをかけ、お客様のご期待に沿える製品を提供してまいります。

